SNAでのSNMPポーリングおよび不適切なイン ターフェイスの詳細のトラブルシューティング

内容

はじめに

前提条件

要件

使用するコンポーネント

<u>コンフィギュレーション</u>

背景説明

<u>トラブルシューティング</u>

<u>誤ったインターフェイス名</u>

<u>エクスポータまたはインターフェイスが見つからない</u>

接続性の問題

エクスポータをポーリングするマネージャ(SMC)の機能を検証

<u>エクスポータのIPアドレスを使用して、SMCでパケットキャプチャを生成します。</u>

SNMPポーリング設定の検証

SNMPポーリングのライブトラブルシューティング

<u>別のデバイスからのSNMPポーリングのテスト</u>

関連情報

はじめに

このドキュメントでは、Secure Network Analyticsでエクスポータインターフェイス情報が欠落している場合のトラブルシューティング方法について説明します

前提条件

- Ciscoでは、基本的なSimple Network Management Protocol(SNMP)のポーリングに関する 知識があることを推奨しています
- Secure Network Analytics(SNA/StealthWatch)に関する基本的な知識があることが推奨され ます

要件

- バージョン7.4.1以降のSNA Manager
- バージョン7.4.1以降のSNA Flow Collector
- SNAにNetFlowをアクティブに送信しているエクスポータ

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合は、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください

- バージョン7.4.1以降のSNA Manager
- バージョン7.4.1以降のSNA Flow Collector
- SNMPwalkソフトウェア
- Wiresharkソフトウェア

コンフィギュレーション

- デバイス設定: SNMPアクセスを許可するようにエクスポータを設定する必要があります。 これには、SNMPコミュニティストリング、アクセスコントロールリスト(ACL)の設定、使 用するSNMPバージョンの定義など、各デバイスでのSNMP設定の設定が含まれます
- SNAでのSNMPポーリング設定:エクスポータが正しく設定されると、SMCでは事前に設定されたパラメータを使用してSNMPポーリングがデフォルトで有効になります。ポーリングメカニズムが最適に動作するためには、SNMPコミュニティストリングやSNMPバージョンなど、エクスポータに関する必要な詳細情報を提供することが重要です

背景説明

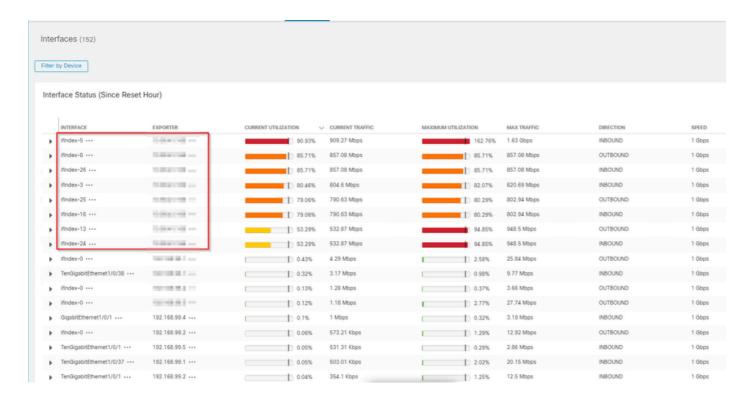
SNAは、インターフェイスステータスレポートを包括的に提供する機能と、NetFlowデータをフローコレクタにアクティブに送信しているエクスポータのインターフェイス名を表示する機能を備えています。 このインターフェイスの詳細は、Manager Web UIからInvestigate -> Interfacesメニューに移動して表示できます。

Interface Status (Since Reset Hour)								
	INTERFACE A EXPORTER		CURRENT UTILIZATION	CURRENT TRAFFIC	MAXIMUM UTILIZATION	MAX TRAFFIC	DIRECTION	SPEED
•	GigabitEthernet1		0.01%	66.59 Kbps	0.18%	1.78 Mbps	INBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet1 · · ·		0%	27.96 Kbps	0.29%	2.9 Mbps	OUTBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet2 · · ·	***	4.31%	43.13 Mbps	12.22%	122.23 Mbps	INBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet2 · · ·		0%	30.51 Kbps	0.02%	154.43 Kbps	OUTBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet3 · · ·	•••	0.01%	110.63 Kbps	0.29%	2.93 Mbps	INBOUND	1 Gbps
-	GigabitEthernet3 · · ·		0.01%	56.49 Kbps	0.04%	396.24 Kbps	OUTBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet4	***	0%	3.52 Kbps	0.06%	594.94 Kbps	INBOUND	1 Gbps
•	ilgabitEthernet4 · · ·		0.01%	70.79 Kbps	0.18%	1.8 Mbps	OUTBOUND	1 Gbps
•	GigabitEthernet5 · · ·	***	0%	346 bps	0%	2.82 Kbps	INBOUND	1 Gbps

トラブルシューティング

誤ったインターフェイス名

生成されたレポートで「ifindex-#」が表示される場合、これはエクスポータインターフェイスに対応していません。これは、SMCまたはエクスポータインターフェイス自体でのSNMPポーリングに関する潜在的な設定の問題を示唆しています。 この例では、特定のエクスポータのSNMPポーリングに関する明らかな問題を取り上げています。



エクスポータまたはインターフェイスが見つからない

テンプレートの検証は、NetFlowデータ処理において非常に重要です。具体的には、エクスポータから受信したNetFlowテンプレートに、フローコレクタによるデコードと処理を正常に行うために必要なすべての必須フィールドが含まれていることを確認します。有効なテンプレートが見つからないと、関連するフローのセットがデコードから除外され、その結果、フローがインターフェイスのリストから欠落します。

インターフェイスリストに必要なエクスポータまたはインターフェイスが表示されない場合は、 着信netflow data dnテンプレートを確認する必要があります。 NetFlowテンプレートを確認する ために、フローコレクタ側でパケットキャプチャを作成し、エクスポータからIPを指定します。 「x.x.x.x」を変更して、NetFlowを取得します。

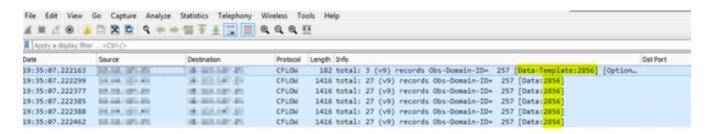
- SSHまたはコンソール経由で、rootクレデンシャルを使用してFlow Collectorにログインします。
- 問題のエクスポータのIPポートとNetFlowポートからパケットキャプチャを実行します。

tcpdump -s0 -v -nnn -i eth0 host x.x.x.x and port 2055 -w /lancope/var/admin/tmp/

.pcap

アプライアンスからWiresharkアプリケーションがインストールされているワークステーションにパケットキャプチャをコピーし、任意の方法(SCP、SFTPなど)を使用します。

Wiresharkでパケットキャプチャを開き、エクスポータがフローコレクタに送信しているテンプレートとデータを確認します



```
▶ Frame 1: 182 bytes on wire (1456 bits), 182 bytes captured (1456 bits)
D Ethernet II, Src: Cisco_94:b4:fc (8c:60:4f:94:b4:fc), Dst: Whare_84:49:4f (80:50:56:84:49:4f)
D Internet Protocol Version 4, Src:
D User Datagram Protocol, Src Port: 23384, Ost Port: 2055
# Cisco NetFlow/IPFIX
    Version: 9
    Count: 3
    SysUptime: 6901.205000000 seconds
  D Timestamp: Jul 20, 2021 15:23:50.000000000 Eastern Daylight Time
    FlowSequence: 226153525
     SourceId: 257
   # FlowSet 1 [id=0] (Data Template): 2856
       FlowSet Id: Data Template (V9) (0)
       FlowSet Length: 68
Template (Id = 2856, Count = 15)
           Template Id: 2856
          Field Count: 15
        Field (1/15): BYTES
          Field (2/15): PKTS
        Field (3/15): OUTPUT_SNMP
        Field (4/15): IP DST ADDR
          Field (5/15): SRC_VLAN
          Field (6/15): IP_TOS
        > Field (7/15): IPv4 ID
        ▶ Field (8/15): FRAGMENT OFFSET
          Field (9/15): IP_SRC_ADDR
          Field (10/15): L4_OST_PORT
          Field (11/15): L4_SRC_PORT
           Field (12/15): PROTOCO
        Field (13/15): FIRST_SWITCHED
```

NetFlowテンプレートが9個の必須フィールドを使用していることを確認します。これらのテンプレートフィールドの正確な名前はエクスポータのタイプによって異なる可能性があるため、設定するエクスポータのタイプの詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- ・ 送信元 IP アドレス
- 宛先 IP アドレス
- 送信元ポート
- 宛先ポート
- ・ レイヤ4プロトコル
- バイト数
- パケット数
- ・ フロー開始時間
- フロー終了時間

インターフェイスを正しく表示するには、次の項目も追加してください。

。インターフェイス出力

。インターフェイス入力

次に、特定のエクスポータのデバイスからのテンプレートパケットキャプチャの例を示します

赤い矢印:必須のNetFlowフィールド

• 緑色の矢印: SNMPフィールド

```
> User Datagram Protocol, Src Port: 51431, Dst Port: 2055
Cisco NetFlow/IPFIX
    Version: 10
    Length: 120
  > Timestamp: Jun 20, 2023 00:24:38.000000000 CST
    FlowSequence: 41662155
    Observation Domain Id: 256
  V Set 1 [id=2] (Data Template): 260
       FlowSet Id: Data Template (V10 [IPFIX]) (2)
       FlowSet Length: 104
     v Template (Id = 260, Count = 24)
         Template Id: 260
         Field Count: 24
       > Field (1/24): IPv4 ID
       > Field (2/24): IP_SRC_ADDR
       > Field (3/24): IP_DST_ADDR
       > Field (4/24): IP_TOS
       > Field (5/24): IP_DSCP
       > Field (6/24): PROTOCOL
       > Field (7/24): IP TTL MINIMUM
       > Field (8/24): IP TTL MAXIMUM
       > Field (9/24): L4_SRC_PORT
       > Field (10/24): L4_DST_PORT
       > Field (11/24): TCP_FLAGS
       > Field (12/24): SRC_AS
       > Field (13/24): IP_SRC_PREFIX
       > Field (14/24): SRC_MASK
       > Field (15/24): INPUT_SNMP
       > Field (16/24): DST_AS
       > Field (17/24): IP_NEXT_HOP
       > Field (18/24): DST_MASK
       > Field (19/24): OUTPUT_SNMP
       > Field (20/24): DIRECTION
       > Field (21/24): BYTES
       > Field (22/24): PKTS
       > Field (23/24): FIRST_SWITCHED
       > Field (24/24): LAST_SWITCHED
```

注:コマンド例に示されているポートは、エクスポータの設定によって異なる場合があります。デフォルトは2055です

🦠 注:パケットキャプチャは5 ~ 10分で実行してください。エクスポータによってはテンプ



💊 レートをN分ごとに送信できるため、NetFlowが正しくデコードされるようにそのテンプレ ートをキャッチする必要があります。テンプレートが表示されない場合は、パケットキャプ チャをより長い期間繰り返します

接続性の問題

接続の確認:SNA Managerアプライアンスとエクスポータが接続されていることを確認します。 IPアドレスをpingして、StealthWatch管理コンソールからエクスポータにアクセスできることを 確認します。ネットワーク接続の問題がある場合は、トラブルシューティングを行い、状況に応 じて問題を解決します。

エクスポータをポーリングするマネージャ(SMC)の機能を検証

- SSH経由でSNAマネージャに接続し、ルートクレデンシャルでログインします
- /lancope/var/smc/log/smc-configuration.logファイルを分析し、ExporterSnmpSession:

```
INFO [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.1.0.253 took 0s
INFO [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.1.0.253 took 0s
WARN [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.10.0.254 failed: java.lang.Exception: timeout
INFO [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.10.0.254 took 20s
WARN [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.10.0.254 failed: java.lang.Exception: timeout
INFO [ExporterSnmpSession] SNMP polling for 10.10.0.254 took 20s
```

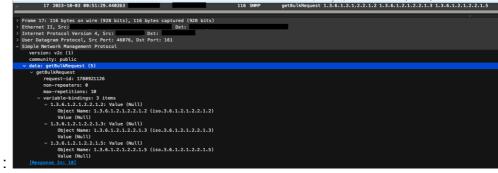
• このポーリング例では、エクスポータ10.1.0.253に対してエラーは検出されませんでした。 しかし、エクスポータ10.1.0.254で最初にタイムアウトエラーメッセージが発生し、その後 20秒の遅延後にポーリング動作を正常に実行することができました。

エクスポータのIPアドレスを使用して、SMCでパケットキャプチャを生成します。

- rootクレデンシャルを使用して、SSHまたはコンソール経由でマネージャノードにログイン します
- 次のコマンドを実行します。

tcpdump -s0 -v -nnn -i [Interface] host [Exporter_IP_address] -w /lancope/var/admin/tmp/[file_name

- 希望する方法(例:SCP、SFTP)でアプライアンスからパケットキャプチャをエクスポー トします。
- Wiresharkでパケットキャプチャを開き、ポーリングの成功を確認します



。SMCからの要求:



インターフェイス情報を含むエクスポータからのSNMP応答:

SNMPポーリング設定の検証

ポーリング間隔が適切であり、必要なメトリックがSNMPクエリに含まれていることを確認しま す

- Web UIで、Configure -> Exporters -> Exporter SNMP Profilesの順に選択します。
- 正しいSNMPポート(通常はUDPポート161)と正しいSNMPクエリー方式が選択されてい ることを確認します。これらは、エクスポータ(ifxTableカラム、CatOS MIB、PanOS



MIB)と適切に一致している必要があります



🤌 注:インターフェイスの速度が10 Gbpsの場合は、SNMPクエリー方式にifxTable columnsオプションを選択することをお勧めします。



💊 注:最適なシステムパフォーマンスを得るには、SNMPポーリングを12時間間隔に設定しま す。ポーリングの頻度を上げても、使用率メトリックが最新の状態になるわけではなく、シ ステムの実行速度が低下する可能性があります。

- SNAとエクスポータの両方で設定されているSNMPバージョンに互換性があることを確認し ます。SNAはSNMPv1、SNMPv2c、およびSNMPv3をサポートします。SNAで設定されて いるSNMPバージョンと同じバージョンを使用するようにエクスポータが設定されているか どうかを確認します。
 - 。SNMPv3を使用する場合は、SNMP設定が正しいことを確認します(ユーザ名、認証 パスワード、認証プロトコル、プライバシーパスワード、プライバシープロトコル)

SNMPポーリングのライブトラブルシューティング

Web UIで、Configure -> Exporters -> Exporter SNMP Profilesの順に選択します。

• ポーリング(分)を一時的に1(分)に設定します。



- SSHまたはコンソール経由で、rootクレデンシャルを使用してSMCにログインします。
- 次のフォルダに移動します。

cd /lancope/var/smc/log

• 次のコマンドを実行します。

tail -f smc-configuration.log

• SNMPv3の場合、一般的なエラーメッセージは次のようになります。

failed: java.lang.IllegalArgumentException: USM passphrases must be at least 8 bytes long (RFC3414

- SNMPプロファイルの認証パスワードが8文字以上に設定されていることを確認します。
- ライブトラブルシューティングが終了したら、エクスポータまたはその設定テンプレートのポーリング(分)設定を以前の値に戻します。

別のデバイスからのSNMPポーリングのテスト

SNMPポーリングのテスト:ローカルマシンから特定のネットワークデバイスへのSNMPポーリングを手動で開始し、応答を受信するかどうかを確認します。これは、SNMPポーリングツールまたはSNMPwalkなどのユーティリティを使用して実行できます。ネットワークデバイスが要求されたSNMPデータで応答することを確認します。応答がない場合は、SNMPの設定または接続に問題があることを示しています。

• SNMPwalkソフトウェアがインストールされているローカルマシンで、エクスポータIPを「x.x.x.x」に置き換えて、CLIで実行します。

snmpwalk -v2c -c public x.x.x.x

。-v2c:使用するSNMPバージョンを指定します。

· -c:コミュニティ文字列を設定する

• エクスポータがSNMPデータで応答することを確認します。

関連情報

- 詳細については、Technical Assistance Center(TAC)にお問い合わせください。有効なサポート契約が必要です。
 各国のシスコ サポートの連絡先。
- また、Cisco Security Analyticsコミュニティもご覧ください。
- <u>テクニカル サポートとドキュメント Cisco Systems</u>

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。